

テスト設計コンテスト OPEN クラス - ア

※全体でA4縦 1 ページに収まるように記述してください。

地域名

栃木

チーム ID

チーム名

不撓不屈の民

チーム紹介

チーム名は当社創設者を題材とした映画・書籍名にもなっている「不撓不屈」が由来となっています。その不撓不屈の精神を胸に秘めたメンバーは、若手からベテランまで経験バラバラな6人構成です。ただ生憎、メンバー全員本コンテストの様なテスト設計においては経験不足であることは否めません。今回は挑戦者として現状の持てる力で最善を尽くし、将来の糧にしたいと思います。

コンセプト

AI(Copilot)を駆使したテスト設計書の作成に挑戦することです。

作成の際に、人間と AI それぞれの視点で設計を実施することで、漏れの無い整合性のとれたテスト設計を目指します。

工夫点

以下5点が工夫点の大きなポイントとなります。

1. AI(Copilot)の活用

展開されている仕様書をインプットとして、AIを活用して成果物を作成しました。内容の妥当性を検証するための時間は人が作成したものより掛かったと感じましたが、成果物の様式を統一感のあるように作成できた点は、一から人の手で作成するよりも容易に実現できました。

2. AI への依頼方法の工夫

AIに資料作成を依頼する際、どのように依頼すれば望む成果物を出力してくれるのかを熟慮しました。機能としてカスタムインストラクションを用い、事前の方針を設定してそれらが継続的に反映されるようにしました。具体的な指示を与えることで、より正確な成果物を得ることができました。また、成果物の作成は必ずしも同じ人が作成するわけではなく、作成者による指示の出し方や、指示を出してきた累積情報の差で成果物の内容・書式に差が出ることもあるため、あらかじめ大まかなレイアウトを決めて、そのレイアウトに沿った形式で作成することで、作成者間の差異をなくしました。

3. 成果物の妥当性・整合性の確保

AIを活用して以下成果物5点を作成しました。

①テスト計画書、②テスト要求分析書、③テストアーキテクチャ設計書、④テストケース設計書、⑤テスト実装手順書

成果物間で記載内容に差異が生まれないようにするために、仕様書及び番号(①～⑤)が前の資料をインプットとして作成しました。作成された資料については人の目でも内容をチェックして仕様書及び数字の前後の書類間で記載内容に齟齬が出ていないかを確認することで、妥当性・整合性が担保されるように注意を払いました。

4. 成果物の確認と修正

成果物①～⑤を統合した最終的な成果物についても、人のレビューだけでなく AI でのレビューも実施することで、人では見落としがちな点で漏れがないか、成果物として評価に値するかのアドバイスをもらい修正の参考としました。これを複数回実施することで、成果物の品質を高めることに繋がりました。図や表については、AIで作成されたものはそのまま成果物として提出するには見辛い部分もあったため、別途図表として差し込むようにしました。

5. 円滑な作業進行

作業進行を少しでも遅らせないように、日次的に実施していたミーティングでは特定の誰かがいなくても滞らないように、あらかじめ AI 担当等のキーとなる作業を複数人が担当するようにしました。現況や課題を常に共有し、必要に応じて担当成果物の配分の変更、タスクの追加・削除を行い、メンバー全員余すことなく成果の達成に臨むことができました。